

◆半紙一行たて書きに臨書して下さい。出品料440円

第一回

1、字句〓十七

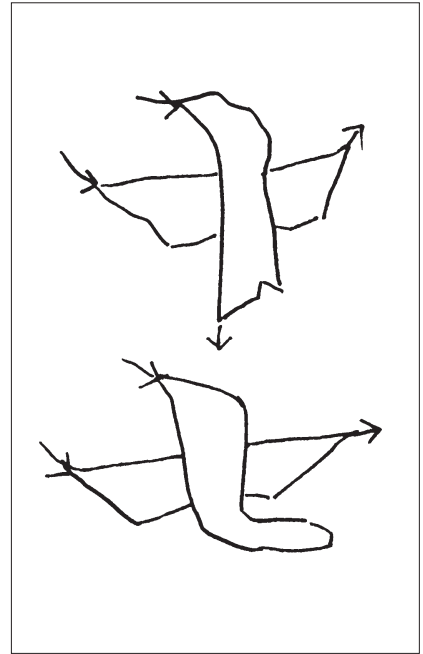
2、形式〓半紙タテ使用。中央に「十七」と臨書し、左余白に落款「〇〇臨」と書き入れる。

3、概観〓今月から王羲之の「十七帖」を取り上げます。王羲之は皆さんも御存知のように、書聖とうたわれ、蘭亭序や楽毅論・黄庭経等数多くの名筆を残しています。その中でも「十七帖」は、唐の太宗皇帝が集めた王羲之の尺牘（手紙）の中から精選して、二十九帖（二十八帖の説あり）を集刻したもので、唐の孫過庭の「書譜」と共に草書を学ぶうえで最良の手本とされています。今回ここに取り上げる「十七帖」は「三井本十七帖」といい、貫名松翁の旧蔵で、以後巖谷一六・日下部鳴鶴を経て、現在は三井家聴水閣に収蔵されています。尺牘というと流麗なものを想像しますが、このように一点一画丁寧に書かれたものを見ると頭が下がります。草書の原点を味わい、制作に生かして戴きたいと思います。

4、各字のポイント

十一 一画目の横画は相当のきびしさで打ち込んでいます。筆の鋒先は上部にあって、その上部の鋒先が抜かれる時、隸書の波磔の如く上にはね上げている。縦画も露鋒で打ち込まれ、収筆では鋒先を右側にし引いている。

七 一画目は露鋒できびしく打ち込み、収筆も鋒先で右横に引き抜いている。二画目は、やはり厳しい打ち込みで、そのまま下に引いて、右へぬき気味に軽く引いて止めている。



十七帖・王羲之

半紙課題（予告）

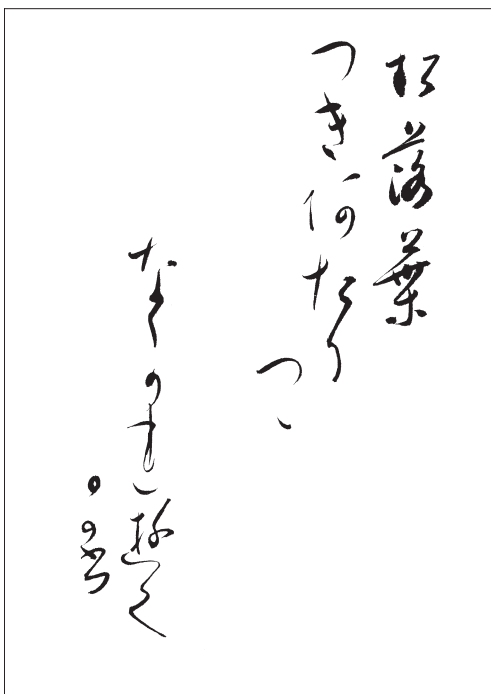
(五月二十二日締切)

平岡華雪先生書 発憤して食を忘る。(論語)

發憤忘食

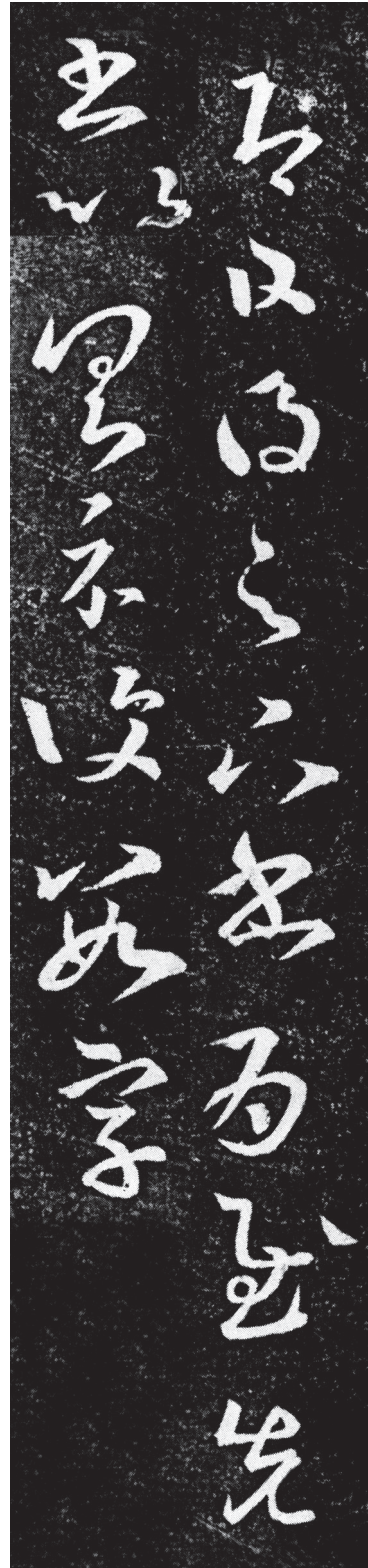
訳：やむにやまれぬ求道心をおこして食事も忘れて熱中する。

平岡華雪先生書 松落葉つきあたりつつ流れゆく(千止)



十七帖（三井本）

王羲之



（天來書院）

即日得足下書。爲慰。先書以具示。復數字。
即日、足下の書を得て、慰と爲す。先書、具示するを以て、復た数字のみ。

※随意部参考（半紙・条幅）としてもご活用下さい。抜粋可。

随意部半紙は無料。随意部条幅は一枚目無料、二枚目から五五〇円。

バーコード券に「条臨」とご記入下さい。名簿は条幅部で「（臨）」と表示されます。

一字書（四月二十二日締切）

課題

剛

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ ※ヨコは中止
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四四〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に

一字と記入 段級は無記入

A
高橋香樹会長書

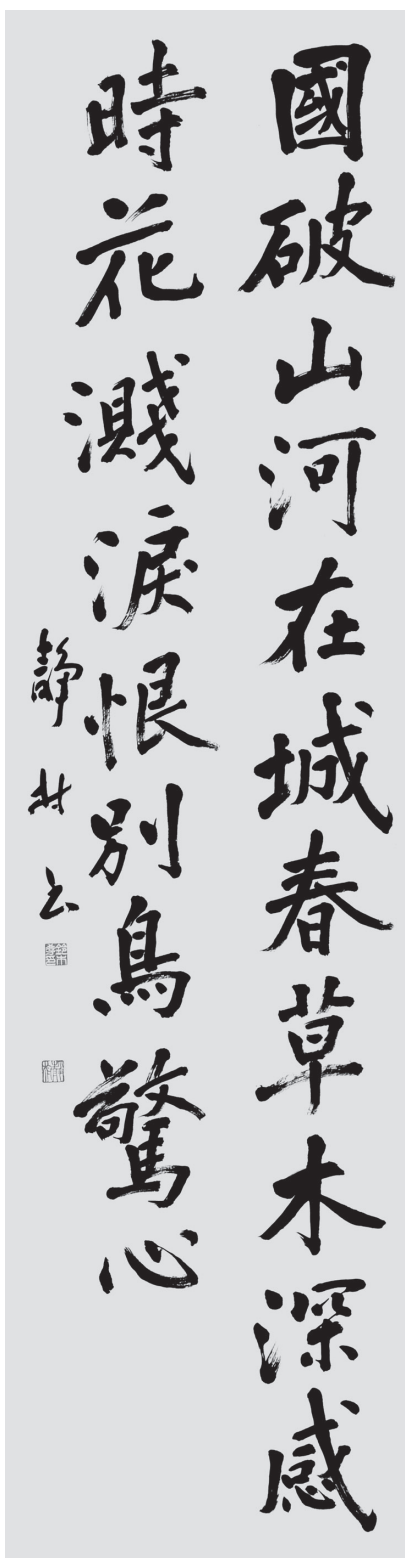
國破山河在 城春草木深 感時花濺淚 恨別鳥驚心 (杜甫)
國破れて山河在り 城春にして草木深し 時に感じて花にも涙を濺ぎ 別れを恨みて鳥にも心を驚かす



B

鈴木静村先生書

二十字の課題。行書を七字、草書を十三字という割合ですが、今回は行の流れを意識しました。一行目は「國」からやや右へ。「河」から左へ、「草」から右へふくらみながら左へ。二行目は「時」から「花濺」と右へ行きながら、また、「涙」から左へふくらみながら右へ。最後は右へ行き過ぎたか。墨継ぎは、「草」と「恨」。



杜甫の名詩。戦乱の世を愁い嘆く沈痛そのものの代表詩。口誦みながら诗情を味わってほしい。今回は楷書体。楷書であっても脈絡は必須。点画がバラバラでは、生動はありません。國 一・二画力強く、内部分割均等に。城 感戈法が主画、堂々とのびやかに。墨継ぎは、三号兼毫筆の場合、四字一筆で墨継ぎしましたが、これは目安です。一人ひとり違って可。唯、せめて三字は一筆で。

訳：国都は破壊しつくされて、昔の姿をとめているのは山河だけだ。城内にも春がめぐってきて、いまや草木がこんもりと生い茂っている。この先ゆき多難な時局を思うと、美しい花を見ても涙がこぼれるし、親しい人々との別れを嘆いては、鳥の声にも胸さわぎがする。

予告 (五月二十二日締切)

濟世功名付豪傑 野人事業在林泉 (載復古)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

A

平岡華雪先生書

花は散りその色となくながむればむなしき空に春雨ぞふる (新古今和歌集 式子内親王)
花は遅り楚の色と那くな可む連八無難しき空に春雨ぞふる

B

向山朴花先生書

花は散りその色となく那可牟れ盤む難し支空に春雨ぞ留

学 び 方

歌意：桜の花は散り、何を眺めるといふのでもなく、むなしき思いで外を眺めると、ひっそりと春の雨が降っていることよ。仮名作品でのみ得られる「散らし書き」を試みました。各々、異なる散らし方を工夫されるのも興味深く、是非お試し下さい。古典の和歌ですので、変体仮名を駆使したり、漢字を仮名に置き換え連綿することにより、紙面に叙情を生み、作品に効果となります。一般的な二行書きと基本的には同じで、墨の濃淡、文字の太細、大小、振幅に配慮すると、きれいな余白も生まれます。私は、歌から伝わる言葉や漢字の意味を大事にしたい思いから、過度な連綿や変体仮名使用を控えて、原本に即した文字表出を心がけています。

予告

(五月二十二日締切)

葉ざくらの雨の雫に青蛙まなこも濡れて鳴くにあるらし (太田水穂)

新古今和歌集は、鎌倉時代初期に編纂された勅撰和歌集。
式子内親王は、後白河天皇の第三皇女で、10年間、賀茂斎院をつとめた。藤原俊成に師事し、その子定家とも交流があり、その当時の和歌の美意識を深く学び得たと思われる。現存する和歌は400首程度。その三分の一以上が勅撰集に入っている。

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

石田愁華先生書

青門日暖塵光動 紫陌花晴風色來（楊巨源）
 青門日に暖かに塵光動き、紫陌花晴れ風色来る。

青門日暖塵光動
 紫陌花晴風色來

愁華

訳：日暖かなる青門には遊人のために塵が起る。花日和よく美しい町には吹く風も色めいて見える。

福田玉翔先生書

いにしへの奈良の都の八重桜今日九重にほひぬるかな（伊勢大輔）
 いにしへの奈良の都の八重桜今日九重にほひぬるかな（伊勢大輔）

いにしへの奈良の都の八重桜
 今日九重にほひぬるかな

- ◆注 意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

水貝潮華先生書

花影婆娑と

踏むべくありぬ
岨の月

原 石鼎

この句は虚子に「豪華跌宕」(華やかで伸びやかなこと)と評された句です。吉野山で頭上に群がり重なるように、豪華に咲き盛った桜花の量感を、月夜の岨道に落ちたその影を描くことにより、より一層盛り上がったボリュームを感じさせています。「花影」と「婆娑と」を墨量タツプりに、一つの塊として表現し、その塊を受け止めるように、「踏む…」を伸びやかに、少し左傾きに、また単調を避けるために、動きを持ちながら書き進めています。そして、そこに添うように「岨の月」を配しました。

皆さんもこの句から、それぞれの「桜花」を表現してみて下さい。

原 石鼎(一八八六―一九五一)
島根県生まれ。

俳人。京都医専を中退し、村医となった次兄の助手として吉野で暮らし、「ホトトギス」に投句、高浜虚子に認められ、ホトトギスに入社、雑誌編集などに携わる。「鹿火屋」創刊・主宰。力強い作風で、大正期には、飯田蛇笏と並び称された。

句集『花影』『石鼎句集』『深吉野』など。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料550円。

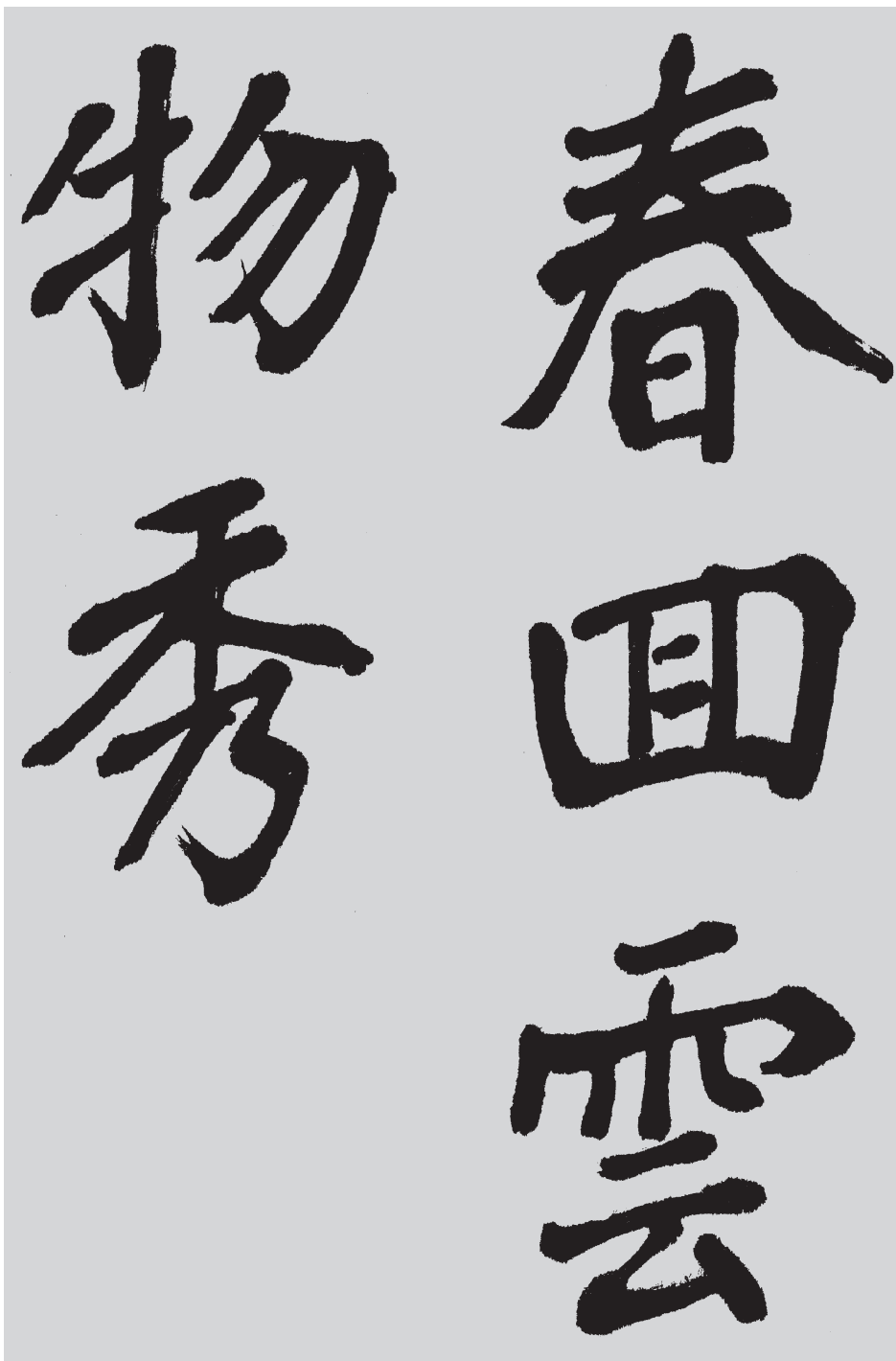
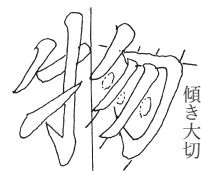
①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

春回^{かえ}り雲物^{うんがつひ}秀^ひづ(唐豊)
訳…雲物は景物に同じ。春がめぐり来て、景色が美しくなる。

〈二行目が勝負〉

一行目はなんとか落ち着いて書けるが、この二行目は「物」から気張ってしまおう。大いにのびやかに運筆を――。

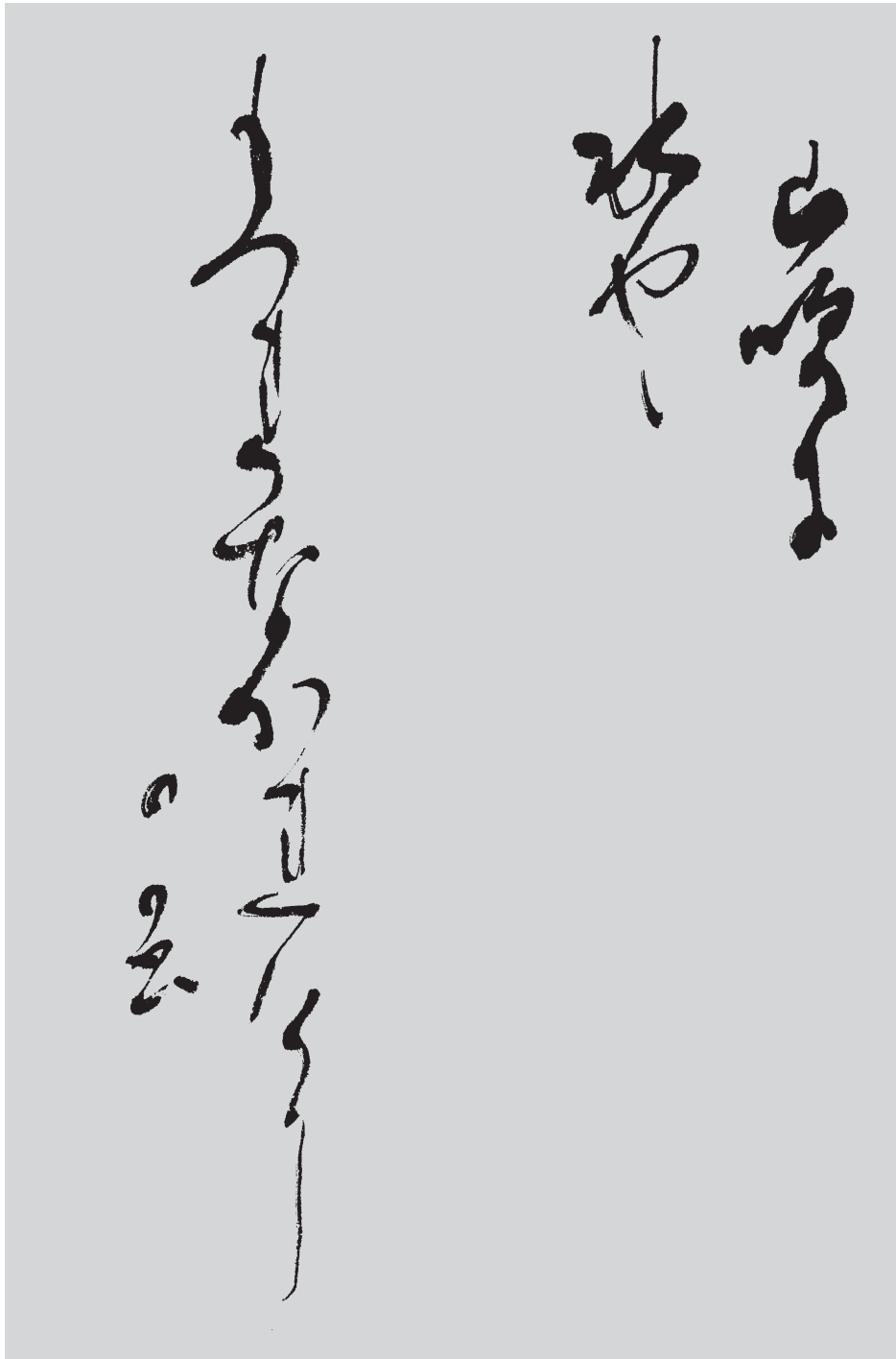


◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は460円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

山吹に水や、縋れ流れけり (紫雲郎)
山吹に水や、もつ連なか連けり



〈突いて入筆〉

一句ひと筆書きで、しかも長連綿の課題です。

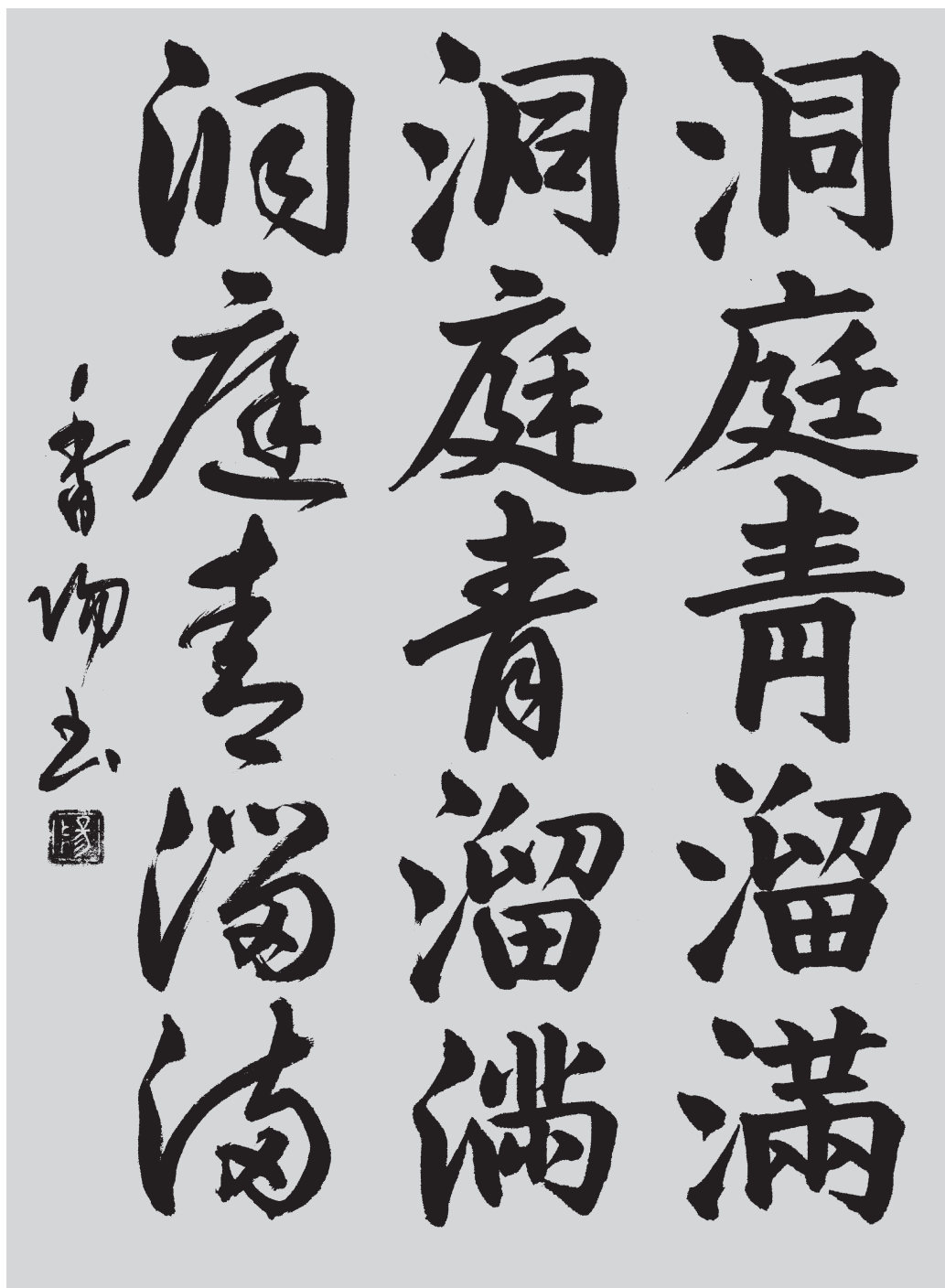
「山水も」は、突き筆で入っています。この入筆は古筆にも多く見られます。鋒先の用筆を錬磨してみてください。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4 cm位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は460円。

①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

福田香陽先生書

洞庭青溜満（陰鏗）
どうていせいりゅうみち

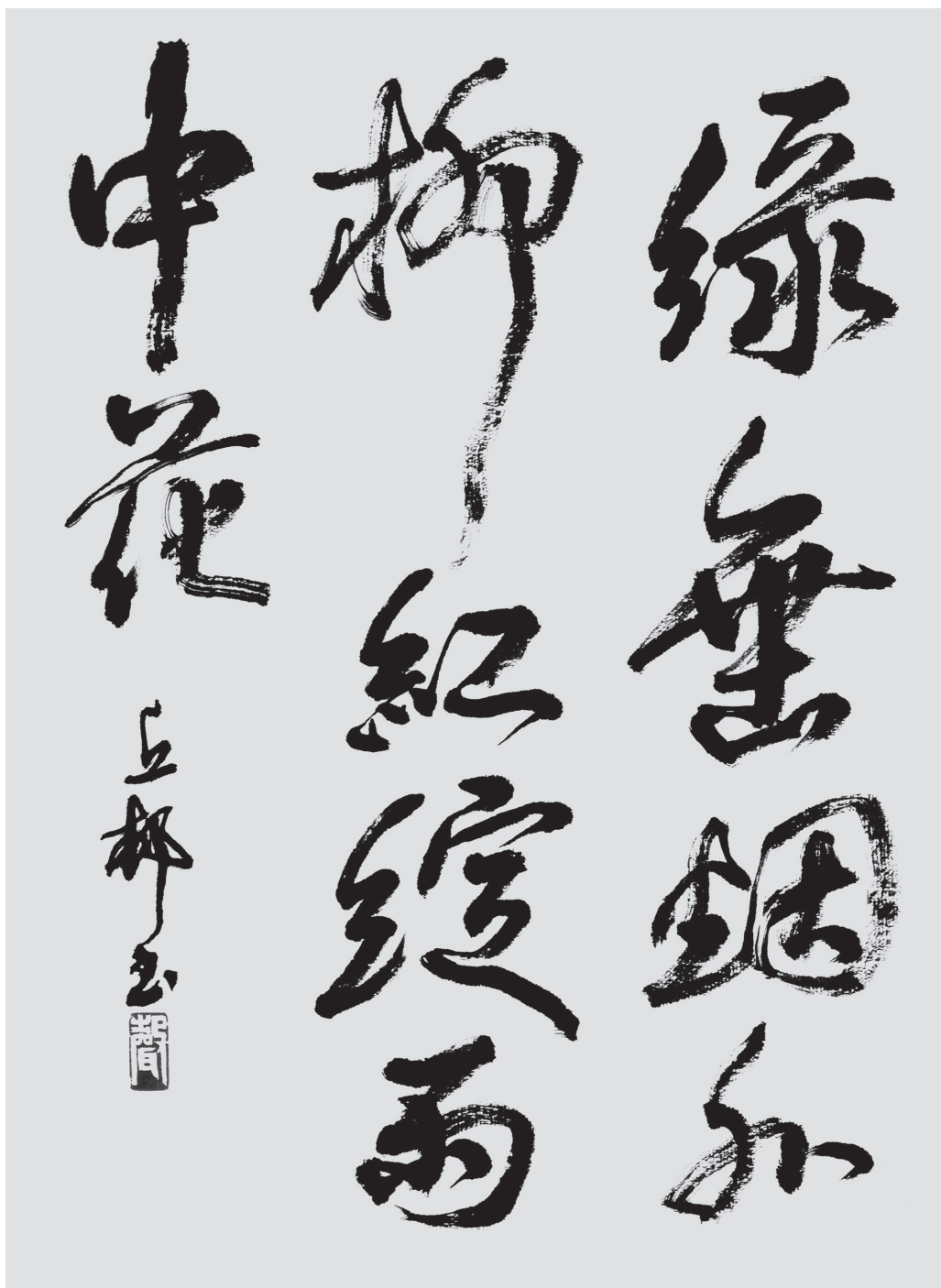


訳：洞庭湖は満々と春水をたたえ、

1. 随意部参考として出品してください。 2. 会員外の出品料は460円。

戸 帳 丘 邨 先 生 書

緑垂烟外柳 紅綻雨中花（謝復）
みどり せん 柳 せん 雨 中 花 謝 復
 緑は垂る烟外の柳、紅は綻ぶ雨中の花。

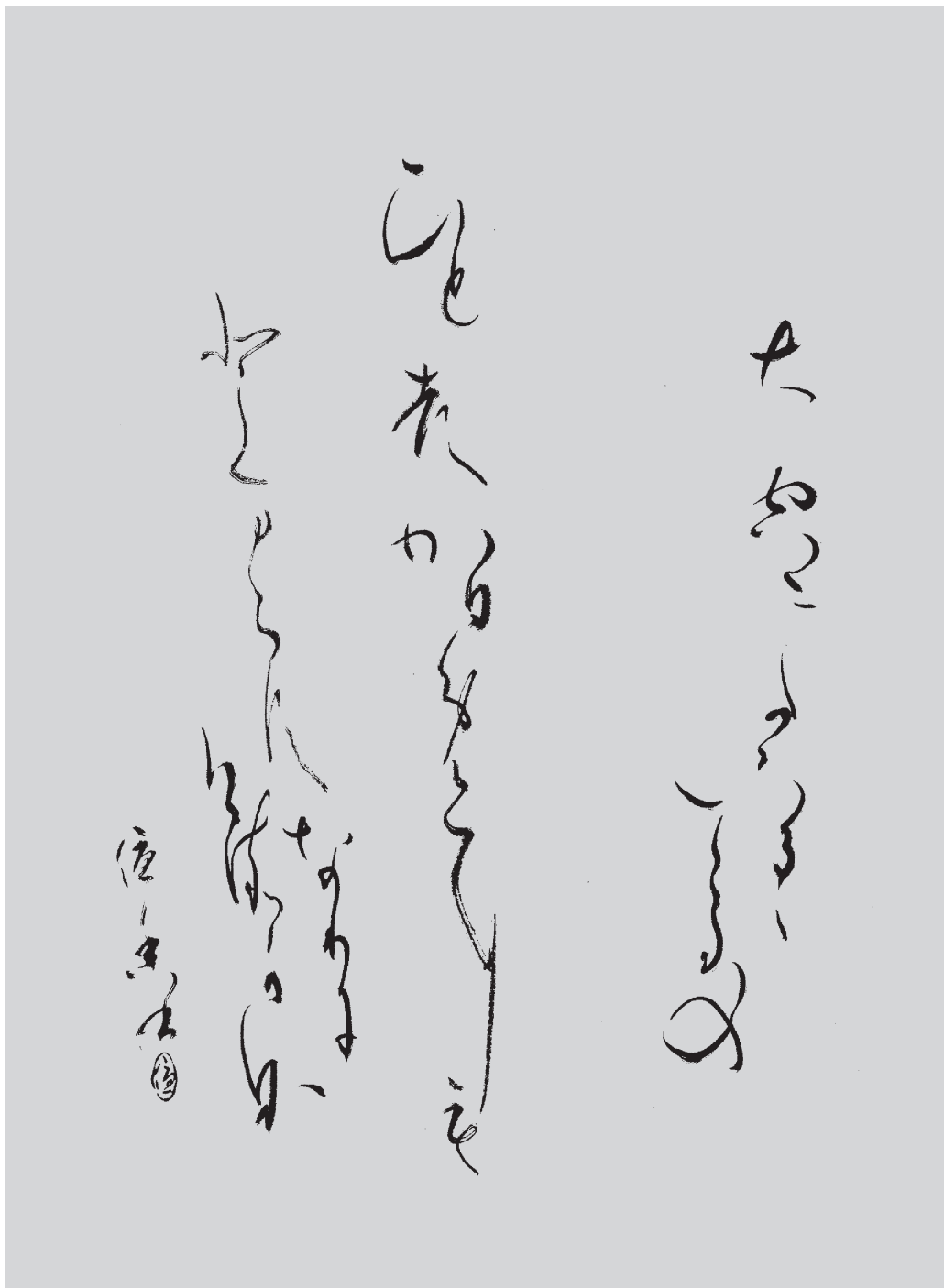


訳：しだれ柳は緑の糸をかすみにそよがせ、赤く咲いた花は雨降る中に美しく見えている。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は460円

本
澤
優
香
先
生
書

大空^{おほぞら}にたはるるてふの^{ひと}一つがひ目^{ひめ}にもとまらずなりけるかな（香川景樹）
大空^{おほぞら}二^に多^た八^はるゝてふのひと都^つか日^ひ免^め耳^に毛^も登^と万^まら須^すな利^り尔^に介^け流^る可^か那^な



1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は460円

赤木典子先生書

石原春香先生書

課題2 (初段格以下)

課題1 (初段以上)

真の芸術家にとりて生とは無尽の
悦樂であり、不断の恍惚であり、
忘我の陶醉なのである。

ここに詩人という天職が出来て、ここに
画家という使命が降る。あらゆる
芸術の士は人の世を長閑にし、人の心を
豊かにするが故に尊とい。

課題1 (初段以上)

ここに詩人という天職が出来て、ここに画家という使命が降る。あらゆる芸術の士は人の世を長閑にし、人の心を豊かにするが故に尊とい。

『草枕』 夏目漱石

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。
- (4) ①硬筆部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新
- (5) 会員は無料・会員外は四六〇円

課題2 (初段格以下)

真の芸術家にとりて生とは無尽の悦樂であり、不断の恍惚であり、忘我の陶醉なのである。

(ロダン)